

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月3日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3894000078
事業所名	グループホームさくらさく
(ユニット名)	はなユニット
記入者(管理者)	
氏名	片山 陽子
自己評価作成日	平成30年6月15日

<p>【事業所理念】 さくらさく季節のように、あたたかい介護と笑顔をおくります。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ※初年度につき実績無し</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人3つ目のグループホームで開設後間もない事業所は、事業所名にもあるようにさくらの花見には絶好の場所の一角にあり、周辺は水田もあり、季節の移ろいを感じることが出来る。代表者は東南海地震など災害に備え、津波等被害からの回避の意味合いもありこの場所を選んだとのことである。管理者は法人内の他の事業所からの異動により着任したベテランで、業務内容等をよく把握し、代表者から全幅の信頼を得ており職員全員心強い限りである。リビングでは、笑顔が絶えることなく利用者と職員の会話が弾み、昼食後の下膳も利用者自ら行うなど、自分のできることは積極的に行う姿勢が窺える。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時やケアプラン作成時に利用者様やご家族様から直接、希望や要望を聞き、把握に努めている。	○	/	○	事前調査において、家族も交え要望等を聞いている。開設1年目で情報は不十分な面もあるため、利用者一人ひとりの情報をより充実させ、意向に沿った支援に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者様の気持ちに寄り添えるよう考え、職員間で意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時やイベント時、電話などでご家族様と話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	個人記録に記入するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	モニタリングをもとにケアカンファレンスを行い、職員間で意見を出し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居時にご家族様から話を聞き、出来る限り、カルテにまとめていくがわからないこともある。新しく気づいたり聞いたことは職員間で話し合い、共有している。	/	/	△	家族や昔からの知人、友人などの訪問があり、生活歴やこだわりを聞くよう努めているが、まだ不十分な面もあるため、職員皆で協力し利用者からの情報は一つでも多く把握するよう努め、さらなるケアの充実を目指して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活状況の中で利用者様の有する能力の把握に努め、個別に出来ることをお願いしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者様の状況を把握し個別に対応できるよう、職員間で話し合っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	その都度、職員間で話し合い、意見交換している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者様の体調、バイタルチェック、食事・水分の摂取状況、排泄状況、一日の過ごし方等、申し送り時に報告を行い、共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントをもとにケアカンファレンスを行い、必要なことをケアプランに取り入れている。	/	/	○	把握した情報をアセスメントし、職員全員で利用者の視点でカンファレンスを行い、必要なことは介護計画に取り入れている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスにて、どのような支援が必要か話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ご本人やご家族様の意向を踏まえ、課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	必ず本人やご家族様より希望や要望を伺ってケアプランをたてている。	/	/	/	職員同士の信頼関係も築かれており、利用者の課題やケアのあり方についてそれぞれの意見やアイデアを反映して作成しているが、今回、管理者は今後高みを目指すため自己評価をやや厳しくしており、今後ますますの発展が期待できる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご本人やご家族様の要望も踏まえ、医師やナースにも相談し介護計画に反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	ご家族様と相談し、取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族様の協力は盛り込まれている。地域の協力は少ない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテにケアプランを綴じており、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	○	ユニット会議において職員全員で利用者一人ひとりの介護計画を理解、共有している。記録の際に介護計画に沿った内容かどうか確認しモニタリングを行い、職員間で共有している。介護計画に沿った支援経過記録となっており、利用者の表情や言葉が一人ひとり記録されている。職員の気づき等についても、利用者個々に事細かく記録できている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録を書く際、ケアプランにそっているか確認しながら記入しモニタリングを行い、職員間で話し合っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者様ごとに個別で具体的に記録を行っている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	出来る限り細かく書くようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間ごとの見直しの他、状態の変化に応じて行っている。	/	/	○	変化がなければ6か月毎に見直しを行っている。変化が見られない場合でも毎月個別にモニタリングを行っている。変化がみられた場合はその都度カンファレンスを行い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月、個別でモニタリングを実施している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状況に応じた計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回のカンファレンスの他、緊急要件がある場合に臨時で会議を開催している。	/	/	◎	月1回のユニット会議や申し送りなどで話し合いがもたれている。緊急要件がある場合には臨機応変に対応している。会議に参加できない場合には、議事録を確認し共有するようにしているが、重複してもリーダーが口頭でも伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	お互いの話を聞き、意見交換できているが雰囲気やばづくりの工夫はできていない。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜勤者以外は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を閲覧できるようにしており、リーダーが口頭で伝達している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	申し送りノートを使い、内容を確認したらサインをするようにしている。	/	/	○	ユニット会議は基本、職員全員参加とし、話し合ったことを共有している。毎日申し送りノートに細かく記入することで漏れがないよう注意をはらい、サインで確認し職員全員で共有するよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	日誌や個人記録、申し送りノートを使用し伝達するようにしている。しかし、連絡漏れがあることもある。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	散髪や外出は近日中に行えるよう、日程を調整している。入浴や散歩等は出来る限り行っている。	/	/	/	衣服の選択やテレビ番組など、自分で決定できるように場面づくりを行っている。職員は常に温かく見守り、利用者一人ひとりの笑顔や明るい表情が引き出せるよう声かけなどに工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時の衣類の選択やテレビ番組等確認し自己決定行えるように場をつくっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	声かけ行い、意思確認するようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活リズムや健康に支障がないように職員が決めることもあるが、出来る限り本人のペースに合わせて支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ユーモアを交えつつお話ししたり、笑顔で声かけ行い、雰囲気づくりしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	注意深く見守りするようにしている。どうしても意思疎通できない場合はご家族様の意向を確認しつつ支援行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員トイレの壁に言っはいけない言葉の注意書きを貼り常に意識するようにしている。また、職員同士で注意しあうよう心掛けている。	○	◎	◎	職員は利用者一人ひとりの人格を大切にしながらケアに取り組んでおり、居室に入る際は必ず利用者の了解を得てからにしている。入浴や排泄時には利用者の尊厳に十分気をつけて対応しているが、時に配慮に欠けた言動をとる職員もいるため、職員全員で意識を高めて利用者本位のケアに努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	気を付けてはいるのですが、時と場合により大きな声になってしまうことがある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	利用者様に合わせた声かけや介助を心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時は必ず声かけを行い理由を説明し、利用者様の了承を得るようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に説明と契約を交わし、会議などでも注意喚起している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	山菜の下処理や家事等を一緒に行い、色々な事を教えていただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	/	/	/	利用者同士の関係を把握し、介護計画にも組み込んでいる。利用者同士の関係がうまくいくように、声かけはまめに行っており、職員が仲介役となり橋渡しを行うこともあるなど、利用者同士いい関係が築けている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	概ね理解し支援できるよう心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者様同士の関係を把握し、ケアプランにも組み込んでいる。度々の声かけや、トラブルになる前に職員が間に入るよう心掛けている。、	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	すぐに職員が間に入りお話を聴くようにしている。仲介行い、座席の移動などで対応することもある。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に本人様、ご家族様に聞き取りを行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様からの聞き取りの範囲内で把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	左記の内容のようには行えていない。ご家族様の協力もあり、一時帰宅や外泊、法要等に行かれる方もおられる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	落ち着いてお話しできるよう、居室にて椅子の準備やお茶の提供をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出希望のある利用者様は希望に添えるよう支援できているが、希望が言えない利用者様の場合は積極的に支援できていない。	○	△	△	開設当初は頻回に外出する機会をつくっていたが、現在は減ってきている状況である。今後は重度の利用者も含め、少しでも外出する機会を増やす取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	していない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	受診やイベント等以外の外出は行っていない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	ご家族様の協力もあり、一時帰宅や外出を行えているが、地域の方の協力では行えていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症についての勉強会も行い、理解を深めている。気になる症状や状態の変化については、職員間で話し合い、申し送り等で共有できるようにしている。	/	/	/	利用者のできることは危険のない範囲で見守りながら支援しているが、ついつい手伝わってしまう職員もいるため、今後は利用者ができることは自分で取り組めるように、できることが増えるように支援していきたいと考えている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	朝のラジオ体操、夕方の足踏み運動、希望時の散歩など、日常の中で行えることに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	声かけ行い、危険のない範囲で見守り、一緒に行うようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	本人やご家族様から情報を聞いて把握している。	/	/	/	掃除や食事前の台拭きなど、自分の役割や楽しみとして行えるよう場面づくりに努めており、利用者がいきいきと楽しそうに取り組んでいる様子が窺えた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	無理なく本人のペースで生活できるよう、支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	行えていない。お祭りの時は五ツ鹿や唐獅子など楽しまれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	洋服はどれを着るか選んで頂いている。髪型も好みを聴き把握している。	/	/	/	着替えは毎日行い、汚れなどには十分気をつけている。食べこぼしなどはさりげなくカバーするよう努めている。重度な状態であってもその人らしさが保てるよう、髪形や服装も意向に沿えるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	更衣時にはご自身で洋服を選んで頂き、髪型も希望に合わせて整えている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に服を選んだり、声掛けを行い確認するようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	利用者様と相談しながら行っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	その都度、整える様にしている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	×	ほとんど訪問のカットを利用している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご本人の希望を聴きながら支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者様の楽しみとしても大切にしている。	/	/	/	職員と利用者は山菜採りに行き、一緒に下処理を行い、食事に供されている。台拭きや洗い物ができる利用者は手伝っている。食器は使い慣れたものを持ってきて使用している。カウンターキッチンとなっており、調理のにおいや音などを感じながら待ち、職員と同じテーブルを囲み楽しく食事することができている。利用者がバランスの取れた栄養がとれるよう献立作りをしているが、職員が中心となり話し合っているため、代表者の妻が栄養士なので、アドバイスをもらう機会をもっと増やすなどの取組みが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下処理や洗い物、台拭きなど利用者様が出来る事は一緒にするようにしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝っていただいた際は、感謝の気持ちを伝え、自信や達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては、入居時の聞き取りで把握している。好き嫌いについては日常の中で把握し職員間で共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	近くに自生している山菜などを一緒に取りに行き、下処理を行い、職員が調理して提供している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	色合いなど気を付けているが、盛り付けの工夫ができていない事もある。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れたものを持ってきていただいて、使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	各テーブルに職員を配置し、一緒に食事をとりながら見守りや介助を行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	同じフロア内で調理しているため、調理の音や香りなど伝わりやすく、ボードにメニューを提示し、会話にも取り入れている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個々に合わせて量を調節し、食事・水分摂取量を記録に残し分かるようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量、水分量記録し、足りない場合はおやつやジュースを提供したり、栄養剤を使っている方もおられる。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けておらず、職員間で話し合い配慮している。	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日、用具のハイター消毒と乾燥機の熱風消毒を行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	個々に合わせた口腔ケアを実施している。	/	/	/	義歯の不具合や口腔内の異変時には歯科医師の往診ができています。毎食後、口腔ケアを行っており、できないところは職員が見守りや声かけをしながら支援しており、口腔内は常に清潔が保持されている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、口腔ケアを行っており、必要に応じて歯科受診もしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学べていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、ブラシで洗浄し、週に2回消毒、洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアを行っている。声掛け見守りを行い、必要に応じて介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常や不具合があった場合はご家族様に報告し、歯科受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	概ね理解しており、自尊心に配慮した声掛けを心掛けている。	/	/	/	利用者の状況を見て、できるだけトイレでの排泄自立を基本として支援している。排泄記録などをチェックし、時間を見計らって早めの誘導をするなど工夫し、利用者個々に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できており、運動や水分摂取量にも気を付けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録に記入しており、排泄前の行動を把握し、誘導するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者様の状態により、可能であればトイレに行けるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	医師や看護師と相談しながら取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録を活用し、兆候が見られたら早めに声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族様には状況を説明し、使用許可を得ている。サイズ感など、ご本人と相談しながら必要に応じて変更している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	時間帯や尿量に応じて使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	毎日の運動や多めの水分摂取には取り組んでいるが、薬に頼ってしまっている部分もある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまっている。希望があれば、添えるよう支援している。	◎	/	△	湯温や浸かる時間など可能なことは利用者の要望に沿えるよう支援しているが、曜日や時間帯は職員の都合等により決めているため、利用者の要望があれば対応できるよう柔軟な支援が望まれる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々に合わせて対応しており、リフトを使用して全員が湯船につかれるようにしている。入浴剤も使用している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	見守り声掛けを行いながら、できる所はしていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けなど工夫しているが、入浴拒まれる時は時間や日付を変更して対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝と入浴前の二回、バイタルチェック行っており、ご本人の体調や意向も伺い対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の記録や申し送りにて、共有している。	/	/	/	日中の活動や過ごし方などを工夫し、夜間は安眠できるようにしており、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。安眠できない日が続く場合は、医師に相談し指示を仰ぐこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	申し送りにて情報交換し、リズムを整えるよう、日中の活動を行ったりしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方を検討、改善しても夜間不眠が続く場合は医師に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様の状態を見ながら、希望があれば休んで頂くよう取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば、電話できるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	声掛け行い、必要な支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があればすぐに対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	贈り物が届いた際、お礼の電話ができるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	電話について相談し了承している。ご家族様から手紙や贈り物が届く方もおられる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	過去のトラブル事例を踏まえ、現段階では原則、利用者様は金銭を所持しないようにしている。ただ、家族と検討し、事務所金庫に預かっている方もおられる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	金銭管理は施設側で行っているが、外出した際、買い物する場を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	当初はよく買い物に出かけていたが、最近では人手のことがあり、買い物にいけない現状である	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	金銭管理は施設側で行っており、金銭は所持していないが、買い物時は立て替えて自由に購入できるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人とご家族様と話し合い、支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	ご本人、ご家族様と話し合い、理解を得ている。ご家族様と相談し、立て替えを行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望や要望に対し救難に対応できるよう話し合いしている。外出支援の際、ご自宅まで職員が付き添うこともある。	○	/	○	自宅に帰りたいなど急な要望に応えるなど、柔軟なサービスが提供できるよう努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には花を植えており、春には満開の桜が見られる。また、駐車スペースを3台以上確保している。	◎	◎	◎	玄関周辺は整理整頓され、清潔感が感じられ気持ちよく入りやすい。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の花を手洗い場やカウンターに置いている。	○	○	○	リビングは天井が高く、明るく開放的な共用スペースとなっている。大きな窓からは四季の風景を眺めることができる。清掃が行き届き清潔感があるなかで利用者は気持ちよく過ごしている。季節に応じ花などを飾ったり、フロアからは事業所周辺の田んぼなどの景色がよく見え、季節の移ろいを感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日清掃行い、換気もして空気の入替えを行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた飾り物をしたり、フロアからは景色がよく見え、季節の移り変わりを感ぜられるようになっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアの窓際にソファを置き、景色を楽しみながらお話できるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ほぼ、見えにくい場所にあり、トイレに入られた際は、危険のない範囲で戸を開けて対応している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンス等の家具や布団など使い慣れたものを持参していただいている。	○	/	○	タンスや収納ケース、寝具など家庭で使い慣れたものや用品などが持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう配慮している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	通路や壁際には手すりを設置している。トイレのドアにはわかりやすいよう、マークを貼っている。	/	/	○	ユニット内や通路には手すりが取り付けられ、部屋には名前が表示され、折り紙で目印を付けている。トイレのドアにはマークが貼られ、トイレ内も広く適切な場所に手すりが取り付けられるなど、安全を確保しながら利用者が自立した生活が送れるよう努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	個々の状態に合わせて、配置等に気を付けている。危険なものは目の届かない所に置いている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌、ティッシュペーパーなど、自由に使用できるよう、テーブルの上に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	開設して一年、カンファレンスや勉強会などでは話してきたが理解していない職員がいたため、ユニットとの出入り口に付いていた鍵を業者をお願いして撤去してもらった	◎	◎	◎	代表や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は常に開放されている。利用者が外に出る際は、職員が寄り添い見守りながら安全を確保している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族にも理解して頂ける様に入居時に説明している	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関も開放的にしている。両ユニット職員が常に利用者様の居場所の把握に努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人一人の受診ノートを作成し、職員全員が周知出来る様にしている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝のバイタルチェックや様子観察をしっかり行っている。夜勤者からの引継ぎや、介護記録の記載も異常時は特に細かく記載するようにしている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	少しでも変化があれば、看護師に相談できる環境が整っている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に本人、家族からの希望を伺っている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族の希望に沿った受診を行っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	定期受診以外の受診時には、家族に連絡している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設内での生活等、サマリーを渡している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	入院時には必要な情報を伝えているが、入院中はあまりできていない	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	日頃からの関係づくりを行っていない	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週3日、パート勤務の看護師に細目に相談している。また休みの際に、電話で報告等行っている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師に相談できる体制にある	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝バイタルチェックを行い、異常時は看護師に報告している	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに薬剤情報提供書を入れている。薬の変更時には、受診ノートにも記載している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬の薬には日付けを入れ、内服時には声に出して、名前、日付けを言い、間違いがないかの確認を行っている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の状態や、副作用がないかなど本人の観察を行っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	異常時は介護記録に記載し、看護師に相談。また、家族主治医に報告している	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明を行い、同意を得ている	/	/	/	看取り指針を定め、利用者や家族には説明を行っている。方針については、医師を含め職員全員で共有している。今後希望があれば利用者や家族と話し合いをすすめ、支援に取り組んでいきたいと考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	看取りの経験が少ない職員が多く、不安な思いを持っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明し、理解してもらっている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人、家族の希望を伺いながら、相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	「ずっとここで…」と望んで下さる方もいたが、答えることができなかった	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	早期発見、早期対応には努めているが、定期的には学べていない	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	職員、把握はしているが、日頃からの訓練を行えてはいない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットや、医療機関を通じて、情報をできる限り早く入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時は特に気を付けている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には手洗いの手順を掲示しており、消毒液、ペーパータオルを設置している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族にはこまめに連絡を取り、季節ごとの衣類交換や、行事などの参加をお願いしている	/	/	/	家族には随時、行事の案内をし参加を呼びかけ、意見交換が行えるようにしている。遠方の家族には必要に応じ電話連絡をとっているが、利用者の様子等は報告できてないので、手紙や写真等を送るなどの取組みが望まれる。事業所の運営上のことなどの報告が不十分なので、今後は手紙などを送付し、こまめに報告するよう努めて欲しい。家族の面会時には気軽に話せるよう声かけに努めるなど、雰囲気づくりにも配慮している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気軽に訪問してもらえるよう、声掛け、挨拶等を行っている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事には参加の案内を呼びかけを行っている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	訪問時や電話時に具体的に伝えているが、手紙や写真の送付はない	○	/	△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族・本人が話しやすい雰囲気を作り、不安や不満などの訴えを聞けるようにしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係がより良く築いていけるように、家族とも話し合って支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議で報告しているが、家族には報告が遅れることがある	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流の場がなく、図れていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明し、その後必要に応じて話している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、声を掛け話をするように心がけている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	法人代表から契約や重要事項を説明し、納得、同意を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	例えば、病院に入院中の方であれば、お見舞いを兼ね、利用者様の容態を確認し、必要であれば家族へ逐一報告する。また、共同生活に支障をきたす利用者がいれば、これも逐一家族へ報告をし、家族へ説明し、様々な選択肢を考え、家族とともに考える	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料金については今のところ変更はないが、介護報酬改定には必ず、改定箇所を文書で作成し、同意書をとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の計画の段階から、自治会へのアプローチを行い、公民館等で事業計画や事業の内容を説明した	/	○	/	開設して1年が経過し、模索しながら地域との関わりがもてるよう努力しているが、地域の行事には参加できていないのが現状である。今後地域行事にも積極的に参加するなど、地域との連携強化に努めて欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の方とお会いすれば、必ず挨拶を行うが、まだ、地域の行事に頻繁に参加することができていない	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	まだまだではあるが、地域の方からの認知度は少しずつ上がっていて、温かい目で見守ってくれていると思う	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	地域の方が気軽に立ち寄ることは、あまりない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地域の方と挨拶は交わすが、気軽に立ち寄ることはあまりない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	少しずつではあるが、ボランティアの支援はいただいているが、何かの行事やイベントで地域の方やボランティアの方への支援は行われていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近隣の散歩や季節感を味わうために、近くをドライブして外出の楽しみを感じてもらっているが、すべての利用者に個別対応がなかなかできていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	まだまだではあるが、理美容店、福祉施設、交番、消防等は少しずつ関係を作っていると思うが、商店や飲食店などは認知度は薄いと思われる	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、地域の代表、行政等は参加していただいているが、利用者は参加できていない	×	/	△	会議には家族、地域代表や町の担当者、民生委員の参加があり、事業所や利用者の報告がされている。今後は利用者や家族にも積極的に参加してもらい、外部評価結果などを報告するなど、充実した会議となるよう取り組みたいと考えており前向きな姿勢が期待できる。参加者には意見や提案等を出してもらい、職員全員でカンファレンスを行い、サービス向上に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	自己評価・外部評価が今回初めてなので、これからです	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議の委員さんから様々の提案や情報をいただき、職員カンファレンス等で話し合いを行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	会議のメンバーは固定化されているので、これから増やすことが課題かと思う。また、多くの参加が見込まれることを考え、日程や時間帯の調整も今後していきたいと思う	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録はいつでも閲覧できるように玄関先に置いてある	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は職員一人一人が職員一人一人が出動時にすぐ目に入る様に、玄関正面に掲示し、理念に基づいた支援になる様取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	すぐ目に入りやすい様に正面玄関に掲示している。また、パンフレットにも記載している	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	ホーム内では定期的に勉強会を実施し、職員の知識と技術の底上げを図っている。また、施設外の研修には、シフトの関係もあるが、なるべく参加してもらうようになっているが、不定期になっているのが現状である	/	/	/	代表者はたびたび事業所を訪れ、職員の疲労度などを確認しており、管理者に職員の希望休を受け入れるようシフト作りに配慮するよう指示しており、職員は働きやすい職場であると感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	△	管理者は、事業所・法人の方針をOJTに組み込み、少しずつ職員がスキルアップしているが、日ごろの業務に追われ、計画的なOJTとは言えない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回(夏、年末)の人事考課制度を取っており、自己評価、上司評価、上司面談を行い、公正な評価を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修を通じて、同業者との交流は少しずつ図れているが、すべての職員ではなく、個人個人の差があるのが現状。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスの度合いは、職員それぞれかと思うが、有給休暇はなるべく本人希望に沿うようになっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	ほとんどの職員が研修に参加し、また、社内勉強会を行い理解を図っている	/	/	/	ユニット会議での話し合いや勉強会を定期的実施して、虐待防止の意識向上に努めている。不適切な声かけがあった場合には、その都度注意し、改善に努めており、職員は不適切なケアを発見した際の手順や対応方法について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送りや、話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、状況に応じて個別で話をもっている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の皮膚観察や、異常時には事故報告書を提出し、話し合っている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には声をかけ、顔色等気に掛け、体調を伺う様になっている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの拘束や、施設への要望は今の所はない	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	ほとんどの職員が理解していない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	パンフレットでの情報提供できていない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今の所ケースはない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	×	マニュアル作成出来ておらず、周知していない				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	経験不足の職員が多いのにもかかわらず、訓練できていない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	報告書を書く習慣はついており、細目に提出し、カンファレンスでも話しあい、再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアで気がつきがあれば、すぐに検討し、事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応のマニュアルは作成出来ていないが、苦情に対しては誠意を持って対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、みんなで対応策を話し合っている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	話しやすい雰囲気、環境づくりに努めている。訴え時には丁寧に対応し、対応策を職員一同で考える様にしている			○	利用者には日々の生活の中で話を聴いたり、家族には面会時や運営推進会議で意見や要望を遠慮なく伝えてもらえるような雰囲気づくりに職員全員で取り組んでいる。管理者はカンファレンス後に職員が意見を言う機会を設けており、日頃から職員が話しやすいよう雰囲気づくりにも努め、職員は気軽に何でも相談することができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入居の契約時に、苦情相談窓口について。代表が説明している	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ケアプラン見直し時には、必ず連絡し、伺う様にしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを訪問し、一人一人利用者に声をかけ、話しやすい雰囲気作りに努めている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃より、話しやすい雰囲気作りに努め、また、カンファレンスで職員の意見を聞く様にしている				

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員には、サービス評価の意義を説明し、今回初めて自己評価を行った	/	/	/	開設後初の外部評価であるため評価外の項目ではあるが、今回の評価結果をもとに目標達成計画を立て、運営推進会議などで家族をはじめ関係者に報告していきたいと考えており、積極的な姿勢が評価できる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	-	外部評価が行われてから、カンファレンスで検討する予定	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	外部評価が行われてから、カンファレンスで検討する予定	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	-	外部評価実施後、実行する	○	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	-	外部評価実施後、実行する	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	災害の種別ごとにはマニュアル作成できていない	/	/	/	消防署指導のもと1度避難訓練を行ったが、地域住民や家族の協力が得られるまでには至っていないため、より積極的に地域との関わりをもち、連携強化を図り今後の災害訓練に取り組むことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	開設して1年、2回しか避難訓練行っていないが、日勤帯、夜間帯を想定した訓練を行った	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	×	全て兼ね備えているか、不安である	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署には一度来てもらい、消火訓練を行ったが、地域住民や家族の参加はまだ現在できていない	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議で情報を発信したりしているが、それ以外はできていない	/	/	/	まだ日が浅い事業所なので、地域とのつながりの構築には何らかの取り組みが望まれるため、代表者と管理者を中心に職員一丸となり地域に根ざし、相談拠点となるような事業所を目指して欲しい。町内のグループホーム管理者の集会には参加し連携を図っているが、まだ1年目で不十分であるため、地域住民とより関わりを深め、地域の相談ニーズの集約や地域イベントへの協力など交流をさらに深め、地域のケア拠点としての機能を果たすことを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	相談支援をできる体制はあるが、未だ行っていない	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行っていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行っていない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内のグループホーム管理者の集まりには参加し、連携をとっている	/	/	△	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月3日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3894000078
事業所名	グループホームさくらさく
(ユニット名)	もりユニット
記入者(管理者)	
氏名	片山 陽子
自己評価作成日	平成30年6月15日

<p>【事業所理念】 さくらさく季節のように、あたたかい介護と笑顔をおくります。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ※初年度につき実績無し</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人3つ目のグループホームで開設後間もない事業所は、事業所名にもあるようにさくらの花見には絶好の場所の一角にあり、周辺は水田もあり、季節の移ろいを感じることができる。代表者は東南海地震など災害に備え、津波等被害からの回避の意味合いもありこの場所を選んだとのことである。管理者は法人内の他の事業所からの異動により着任したベテランで、業務内容等をよく把握し、代表者から全幅の信頼を得ており職員全員心強い限りである。リビングでは、笑顔が絶えることなく利用者と職員の会話が弾み、昼食後の下膳も利用者自ら行うなど、自分のできることは積極的に行う姿勢が窺える。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時やケアプラン作成時に利用者様やご家族様から直接、希望や要望を聞き、把握に努めている。	○	/	○	事前調査において、家族も交え要望等を聞いている。開設1年目で情報は不十分な面もあるため、利用者一人ひとりの情報をより充実させ、意向に沿った支援に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者様の気持ちに寄り添えるよう考え、職員間で意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時やイベント時、電話などでご家族様と話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	個人記録に記入するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	モニタリングをもとにケアカンファレンスを行い、職員間で意見を出し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居時にご家族様から話を聞き、出来る限り、カルテにまとめていくがわからないこともある。新しく気づいたり聞いたことは職員間で話し合い、共有している。	/	/	△	家族や昔からの知人、友人などの訪問があり、生活歴やこだわりを聞くよう努めているが、まだ不十分な面もあるため、職員皆で協力し利用者からの情報は一つでも多く把握するよう努め、さらなるケアの充実を目指して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活状況の中で利用者様の有する能力の把握に努め、個別に出来ることをお願いしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者様の状況を把握し個別に対応できるよう、職員間で話し合っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	その都度、職員間で話し合い、意見交換している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者様の体調、バイタルチェック、食事・水分の摂取状況、排泄状況、一日の過ごし方等、申し送り時に報告を行い、共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントをもとにケアカンファレンスを行い、必要なことをケアプランに取り入れている。	/	/	○	把握した情報をアセスメントし、職員全員で利用者の視点でカンファレンスを行い、必要なことは介護計画に取り入れている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスにて、どのような支援が必要か話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ご本人やご家族様の意向を踏まえ、課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	必ず本人やご家族様より希望や要望を伺ってケアプランをたてている。	/	/	/	職員同士の信頼関係も築かれており、利用者の課題やケアのあり方についてそれぞれの意見やアイデアを反映して作成しているが、今回、管理者は今後高みを目指すため自己評価をやや厳しくしており、今後ますますの発展が期待できる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご本人やご家族様の要望も踏まえ、医師やナースにも相談し介護計画に反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	ご家族様と相談し、取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族様の協力は盛り込まれている。地域の協力は少ない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテにケアプランを綴じており、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	○	ユニット会議において職員全員で利用者一人ひとりの介護計画を理解、共有している。記録の際に介護計画に沿った内容かどうか確認しモニタリングを行い、職員間で共有している。介護計画に沿った支援経過記録となっており、利用者の表情や言葉が一人ひとり記録されている。職員の気づき等についても、利用者個々に事細かく記録できている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録を書く際、ケアプランにそっているか確認しながら記入しモニタリングを行い、職員間で話し合っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者様ごとに個別で具体的に記録を行っている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	出来る限り細かく書くようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間ごとの見直しの他、状態の変化に応じて行っている。	/	/	○	変化がなければ6か月毎に見直しを行っている。変化が見られない場合でも毎月個別にモニタリングを行っている。変化がみられた場合はその都度カンファレンスを行い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月、個別でモニタリングを実施している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状況に応じた計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回のカンファレンスの他、緊急要件がある場合に臨時で会議を開催している。	/	/	◎	月1回のユニット会議や申し送りなどで話し合いがもたれている。緊急要件がある場合には臨機応変に対応している。会議に参加できない場合には、議事録を確認し共有するようにしているが、重複してもリーダーが口頭でも伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	お互いの話を聞き、意見交換できているが雰囲気やばづくりの工夫はできていない。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜勤者以外は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を閲覧できるようにしており、リーダーが口頭で伝達している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	申し送りノートを使い、内容を確認したらサインをするようにしている。	/	/	○	ユニット会議は基本、職員全員参加とし、話し合ったことを共有している。毎日申し送りノートに細かく記入することで漏れがないよう注意をはらい、サインで確認し職員全員で共有するよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	日誌や個人記録、申し送りノートを使用し伝達するようにしている。しかし、連絡漏れがあることもある。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	散髪や外出は近日中に行えるよう、日程を調整している。入浴や散歩等は出来る限り行っている。	/	/	/	衣服の選択やテレビ番組など、自分で決定できるように場面づくりを行っている。職員は常に温かく見守り、利用者一人ひとりの笑顔や明るい表情が引き出せるよう声かけなどに工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時の衣類の選択やテレビ番組等確認し自己決定行えるように場をつくっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	声かけ行い、意思確認するようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活リズムや健康に支障がないように職員が決めることもあるが、出来る限り本人のペースに合わせて支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ユーモアを交えつつお話ししたり、笑顔で声かけ行い、雰囲気づくりしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	注意深く見守りするようにしている。どうしても意思疎通できない場合はご家族様の意向を確認しつつ支援行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員トイレの壁に言っはいけない言葉の注意書きを貼り常に意識するようにしている。また、職員同士で注意しあうよう心掛けている。	○	◎	◎	職員は利用者一人ひとりの人格を大切にしながらケアに取り組んでおり、居室に入る際は必ず利用者の了解を得てからにしている。入浴や排泄時には利用者の尊厳に十分気をつけて対応しているが、時に配慮に欠けた言動をとる職員もいるため、職員全員で意識を高めて利用者本位のケアに努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	気を付けてはいるのですが、時と場合により大きな声になってしまうことがある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	利用者様に合わせた声かけや介助を心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時は必ず声かけを行って理由を説明し、利用者様の了承を得るようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に説明と契約を交わし、会議などでも注意喚起している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	山菜の下処理や家事等を一緒に行い、色々な事を教えていただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	/	/	/	利用者同士の関係を把握し、介護計画にも組み込んでいる。利用者同士の関係がうまくいくように、声かけはまめに行っており、職員が仲介役となり橋渡しを行うこともあるなど、利用者同士いい関係が築けている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	概ね理解し支援できるよう心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者様同士の関係を把握し、ケアプランにも組み込んでいる。度々の声かけや、トラブルになる前に職員が間に入るよう心掛けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	すぐに職員が間に入りお話を聴くようにしている。仲介行い、座席の移動などで対応することもある。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に本人様、ご家族様に聞き取りを行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様からの聞き取りの範囲内で把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	左記の内容のようには行えていない。ご家族様の協力もあり、一時帰宅や外泊、法要等に行かれる方もおられる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	落ち着いてお話しできるよう、居室にて椅子の準備やお茶の提供をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出希望のある利用者様は希望に添えるよう支援できているが、希望が言えない利用者様の場合は積極的に支援できていない。	○	△	△	開設当初は頻回に外出する機会をつくっていたが、現在は減ってきている状況である。今後は重度の利用者も含め、少しでも外出する機会を増やす取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	していない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	受診やイベント等以外の外出は行っていない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	ご家族様の協力もあり、一時帰宅や外出を行えているが、地域の方の協力では行えていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症についての勉強会も行い、理解を深めている。気になる症状や状態の変化については、職員間で話し合い、申し送り等で共有できるようにしている。	/	/	/	利用者のできることは危険のない範囲で見守りながら支援しているが、ついつい手伝ってしまう職員もいるため、今後は利用者ができることは自分で取り組めるように、できることが増えるように支援していきたいと考えている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	朝のラジオ体操、夕方の足踏み運動、希望時の散歩など、日常の中で行えることに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	声かけ行い、危険のない範囲で見守り、一緒に行うようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	本人やご家族様から情報を聞いて把握している。	/	/	/	掃除や食事前の台拭きなど、自分の役割や楽しみとして行えるよう場面づくりに努めており、利用者がいきいきと楽しそうに取り組んでいる様子が窺えた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	無理なく本人のペースで生活できるよう、支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	行えていない。お祭りの時は五ツ鹿や唐獅子など楽しまれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	洋服はどれを着るか選んで頂いている。髪型も好みを聴き把握している。	/	/	/	着替えは毎日行い、汚れなどには十分気をつけている。食べこぼしなどはさりげなくカバーするよう努めている。重度な状態であってもその人らしさが保てるよう、髪形や服装も意向に沿えるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	更衣時にはご自身で洋服を選んで頂き、髪型も希望に合わせて整えている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に服を選んだり、声掛けを行い確認するようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	利用者様と相談しながら行っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	その都度、整える様にしている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	ほとんど訪問のカットを利用している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご本人の希望を聴きながら支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者様の楽しみとしても大切にしている。	/	/	/	職員と利用者は山菜採りに行き、一緒に下処理を行い、食事に供されている。台拭きや洗い物ができる利用者は手伝っている。食器は使い慣れたものを持ってきて使用している。カウンターキッチンとなっており、調理のにおいや音などを感じながら待ち、職員と同じテーブルを囲み楽しく食事することができている。利用者がバランスの取れた栄養がとれるよう献立作りをしているが、職員が中心となり話し合っているため、代表者の妻が栄養士なので、アドバイスをもらう機会をもっと増やすなどの取組みが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下処理や洗い物、台拭きなど利用者様が出来る事は一緒にするようにしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝っていただいた際は、感謝の気持ちを伝え、自信や達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては、入居時の聞き取りで把握している。好き嫌いについては日常の中で把握し職員間で共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	近くに自生している山菜などを一緒に取りに行き、下処理を行い、職員が調理して提供している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	色合いなど気を付けているが、盛り付けの工夫ができていない事もある。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れたものを持ってきていただいて、使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	各テーブルに職員を配置し、一緒に食事をとりながら見守りや介助を行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	同じフロア内で調理しているため、調理の音や香りなど伝わりやすく、ボードにメニューを提示し、会話にも取り入れている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個々に合わせて量を調節し、食事・水分摂取量を記録に残し分かるようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量、水分量記録し、足りない場合はおやつやジュースを提供したり、栄養剤を使っている方もおられる。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けておらず、職員間で話し合い配慮している。	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日、用具のハイター消毒と乾燥機の熱風消毒を行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	個々に合わせた口腔ケアを実施している。	/	/	/	義歯の不具合や口腔内の異変時には歯科医師の往診ができています。毎食後、口腔ケアを行っており、できないところは職員が見守りや声かけをしながら支援しており、口腔内は常に清潔が保持されている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、口腔ケアを行っており、必要に応じて歯科受診もしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学べていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、ブラシで洗浄し、週に2回消毒、洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアを行っている。声掛け見守りを行い、必要に応じて介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常や不具合があった場合はご家族様に報告し、歯科受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	概ね理解しており、自尊心に配慮した声掛けを心掛けている。	/	/	/	利用者の状況を見て、できるだけトイレでの排泄自立を基本として支援している。排泄記録などをチェックし、時間を見計らって早めの誘導をするなど工夫し、利用者個々に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できており、運動や水分摂取量にも気を付けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録に記入しており、排泄前の行動を把握し、誘導するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者様の状態により、可能であればトイレに行けるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	医師や看護師と相談しながら取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録を活用し、兆候が見られたら早めに声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族様には状況を説明し、使用許可を得ている。サイズ感など、ご本人と相談しながら必要に応じて変更している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	時間帯や尿量に応じて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	毎日の運動や多めの水分摂取には取り組んでいるが、薬に頼ってしまっている部分もある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまっている。希望があれば、添えるよう支援している。	◎	/	△	湯温や浸かる時間など可能なことは利用者の要望に沿えるよう支援しているが、曜日や時間帯は職員の都合等により決めているため、利用者の要望があれば対応できるよう柔軟な支援が望まれる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々に合わせて対応しており、リフトを使用して全員が湯船につかれるようにしている。入浴剤も使用している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	見守り声掛けを行いながら、できる所はしていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けなど工夫しているが、入浴拒まれる時は時間や日付を変更して対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝と入浴前の二回、バイタルチェック行っており、ご本人の体調や意向も伺い対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の記録や申し送りにて、共有している。	/	/	/	日中の活動や過ごし方などを工夫し、夜間は安眠できるようにしており、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。安眠できない日が続く場合は、医師に相談し指示を仰ぐこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	申し送りにて情報交換し、リズムを整えるよう、日中の活動を行ったりしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方を検討、改善しても夜間不眠が続く場合は医師に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様の状態を見ながら、希望があれば休んで頂くよう取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば、電話できるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	声掛け行い、必要な支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があればすぐに対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	贈り物が届いた際、お礼の電話ができるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	電話について相談し了承している。ご家族様から手紙や贈り物が届く方もおられる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	過去のトラブル事例を踏まえ、現段階では原則、利用者様は金銭を所持しないようにしている。ただ、家族と検討し、事務所金庫に預かっている方もおられる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	金銭管理は施設側で行っているが、外出した際、買い物する場を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	当初はよく買い物に出かけていたが、最近では人手のことがあり、買い物にいけない現状である	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	金銭管理は施設側で行っており、金銭は所持していないが、買い物時は立て替えて自由に購入できるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人とご家族様と話し合い、支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	ご本人、ご家族様と話し合い、理解を得ている。ご家族様と相談し、立て替えを行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望や要望に対し救難に対応できるよう話し合いしている。外出支援の際、ご自宅まで職員が付き添うこともある。	○	/	○	自宅に帰りたいなど急な要望に応えるなど、柔軟なサービスが提供できるよう努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には花を植えており、春には満開の桜が見られる。また、駐車スペースを3台以上確保している。	◎	◎	◎	玄関周辺は整理整頓され、清潔感が感じられ気持ちよく入りやすい。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の花を手洗い場やカウンターに置いている。	○	○	○	リビングは天井が高く、明るく開放的な共用スペースとなっている。大きな窓からは四季の風景を眺めることができる。清掃が行き届き清潔感があるなかで利用者は気持ちよく過ごしている。季節に応じ花などを飾ったり、フロアからは事業所周辺の田んぼなどの景色がよく見え、季節の移ろいを感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日清掃行い、換気もして空気の入れ替えを行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた飾り物をしたり、フロアからは景色がよく見え、季節の移り変わりを感ぜられるようになっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアの窓際にソファを置き、景色を楽しみながらお話できるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ほぼ、見えにくい場所にあり、トイレに入られた際は、危険のない範囲で戸を開けて対応している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンス等の家具や布団など使い慣れたものを持参していただいている。	○	/	○	タンスや収納ケース、寝具など家庭で使い慣れたものや用品などが持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう配慮している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	通路や壁際には手すりを設置している。トイレのドアにはわかりやすいよう、マークを貼っている。	/	/	○	ユニット内や通路には手すりが取り付けられ、部屋には名前が表示され、折り紙で目印を付けている。トイレのドアにはマークが貼られ、トイレ内も広く適切な場所に手すりが取り付けられるなど、安全を確保しながら利用者が自立した生活が送れるよう努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	個々の状態に合わせて、配置等に気を付けている。危険なものは目の届かない所に置いている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌、ティッシュペーパーなど、自由に使用できるよう、テーブルの上に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	開設して一年、カンファレンスや勉強会などでは話してきたが理解していない職員がいたため、ユニットとの出入り口に付いていた鍵を業者をお願いして撤去してもらった	◎	◎	◎	代表や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は常に開放されている。利用者が外に出る際は、職員が寄り添い見守りながら安全を確保している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族にも理解して頂ける様に入居時に説明している	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関も開放的にしている。両ユニット職員が常に利用者様の居場所の把握に努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人一人の受診ノートを作成し、職員全員が周知出来る様にしている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝のバイタルチェックや様子観察をしっかり行っている。夜勤者からの引継ぎや、介護記録の記載も異常時は特に細かく記載するようにしている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	少しでも変化があれば、看護師に相談できる環境が整っている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に本人、家族からの希望を伺っている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族の希望に沿った受診を行っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	定期受診以外の受診時には、家族に連絡している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設内での生活等、サマリーを渡している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	入院時には必要な情報を伝えているが、入院中はあまりできていない	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	日頃からの関係づくりを行っていない	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週3日、パート勤務の看護師に細目に相談している。また休みの際に、電話で報告等行っている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師に相談できる体制にある	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝バイタルチェックを行い、異常時は看護師に報告している	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに薬剤情報提供書を入れている。薬の変更時には、受診ノートにも記載している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬の薬には日付けを入れ、内服時には声に出して、名前、日付けを言い、間違いがないかの確認を行っている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の状態や、副作用がないかなど本人の観察を行っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	異常時は介護記録に記載し、看護師に相談。また、家族主治医に報告している	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明を行い、同意を得ている	/	/	/	看取り指針を定め、利用者や家族には説明を行っている。方針については、医師を含め職員全員で共有している。今後希望があれば利用者や家族と話し合いをすすめ、支援に取り組んでいきたいと考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	看取りの経験が少ない職員が多く、不安な思いを持っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明し、理解してもらっている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人、家族の希望を伺いながら、相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	「ずっとここで…」と望んで下さる方もいたが、答えることができなかった	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	早期発見、早期対応には努めているが、定期的には学べていない	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	職員、把握はしているが、日頃からの訓練を行えてはいない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットや、医療機関を通じて、情報をできる限り早く入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時は特に気を付けている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には手洗いの手順を掲示しており、消毒液、ペーパータオルを設置している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族にはこまめに連絡を取り、季節ごとの衣類交換や、行事などの参加をお願いしている	/	/	/	家族には随時、行事の案内をし参加を呼びかけ、意見交換が行えるようにしている。遠方の家族には必要に応じ電話連絡をとっているが、利用者の様子等は報告できてないので、手紙や写真等を送るなどの取組みが望まれる。事業所の運営上のことなどの報告が不十分なので、今後は手紙などを送付し、こまめに報告するよう努めて欲しい。家族の面会時には気軽に話せるよう声かけに努めるなど、雰囲気づくりにも配慮している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気軽に訪問してもらえるよう、声掛け、挨拶等を行っている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事には参加の案内を呼びかけを行っている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	訪問時や電話時に具体的に伝えているが、手紙や写真の送付はない	○	/	△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族・本人が話しやすい雰囲気を作り、不安や不満などの訴えを聞けるようにしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係がより良く築いていけるように、家族とも話し合って支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議で報告しているが、家族には報告が遅れることがある	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流の場がなく、図れていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明し、その後必要に応じて話している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、声を掛け話をするように心がけている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	法人代表から契約や重要事項を説明し、納得、同意を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	例えば、病院に入院中の方であれば、お見舞いを兼ね、利用者様の容態を確認し、必要であれば家族へ逐一報告する。また、共同生活に支障をきたす利用者がいれば、これも逐一家族へ報告をし、家族へ説明し、様々な選択肢を考え、家族とともに考える	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料金については今のところ変更はないが、介護報酬改定には必ず、改定箇所を文書で作成し、同意書をとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の計画の段階から、自治会へのアプローチを行い、公民館等で事業計画や事業の内容を説明した	/	○	/	開設して1年が経過し、模索しながら地域との関わりがもてるよう努力しているが、地域の行事には参加できていないのが現状である。今後地域行事にも積極的に参加するなど、地域との連携強化に努めて欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の方とお会いすれば、必ず挨拶を行うが、まだ、地域の行事に頻繁に参加することができていない	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	まだまだではあるが、地域の方からの認知度は少しずつ上がっていて、温かい目で見守ってくれていると思う	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	地域の方が気軽に立ち寄ることは、あまりない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地域の方と挨拶は交わすが、気軽に立ち寄ることはあまりない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	少しずつではあるが、ボランティアの支援はいただいているが、何かの行事やイベントで地域の方やボランティアの方への支援は行われていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近隣の散歩や季節感を味わうために、近くをドライブして外出の楽しみを感じてもらっているが、すべての利用者に個別対応がなかなかできていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	まだまだではあるが、理美容店、福祉施設、交番、消防等は少しずつ関係を作っていると思うが、商店や飲食店などは認知度は薄いと思われる	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、地域の代表、行政等は参加していただいているが、利用者は参加できていない	×	/	△	会議には家族、地域代表や町の担当者、民生委員の参加があり、事業所や利用者の報告がされている。今後は利用者や家族にも積極的に参加してもらい、外部評価結果などを報告するなど、充実した会議となるよう取り組みたいと考えており前向きな姿勢が期待できる。参加者には意見や提案等を出してもらい、職員全員でカンファレンスを行い、サービス向上に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	自己評価・外部評価が今回初めてなので、これからです	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議の委員さんから様々の提案や情報をいただき、職員カンファレンス等で話し合いを行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	会議のメンバーは固定化されているので、これから増やすことが課題かと思う。また、多くの参加が見込まれることを考え、日程や時間帯の調整も今後していきたいと思う	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録はいつでも閲覧できるように玄関先に置いてある	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は職員一人一人が職員一人一人が出勤時にすぐ目に入る様に、玄関正面に掲示し、理念に基づいた支援になる様取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	すぐ目に入りやすい様に正面玄関に掲示している。また、パンフレットにも記載している	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	ホーム内では定期的に勉強会を実施し、職員の知識と技術の底上げを図っている。また、施設外の研修には、シフトの関係もあるが、なるべく参加してもらうようになっているが、不定期になっているのが現状である	/	/	/	代表者はたびたび事業所を訪れ、職員の疲労度などを確認しており、管理者に職員の希望休を受け入れるようシフト作りに配慮するよう指示しており、職員は働きやすい職場であると感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	管理者は、事業所・法人の方針をOJTに組み込み、少しずつ職員がスキルアップしているが、日ごろの業務に追われ、計画的なOJTとは言えない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回(夏、年末)の人事考課制度を取っており、自己評価、上司評価、上司面談を行い、公正な評価を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修を通じて、同業者との交流は少しずつ図れているが、すべての職員ではなく、個人個人の差があるのが現状。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスの度合いは、職員それぞれかと思うが、有給休暇はなるべく本人希望に沿うようになっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	ほとんどの職員が研修に参加し、また、社内勉強会を行い理解を図っている	/	/	/	ユニット会議での話し合いや勉強会を定期的実施して、虐待防止の意識向上に努めている。不適切な声かけがあった場合には、その都度注意し、改善に努めており、職員は不適切なケアを発見した際の手順や対応方法について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送りや、話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、状況に応じて個別で話をもっている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の皮膚観察や、異常時には事故報告書を提出し、話し合っている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には声をかけ、顔色等気に掛け、体調を伺う様になっている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの拘束や、施設への要望は今の所はない	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	ほとんどの職員が理解していない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	パンフレットでの情報提供できていない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今の所ケースはない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	×	マニュアル作成出来ておらず、周知していない				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	経験不足の職員が多いのにもかかわらず、訓練できていない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	報告書を書く習慣はついており、細目に提出し、カンファレンスでも話しあい、再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアで気がつきがあれば、すぐに検討し、事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応のマニュアルは作成出来ていないが、苦情に対しては誠意を持って対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、みんなで対応策を話し合っている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	話しやすい雰囲気、環境づくりに努めている。訴え時には丁寧に対応し、対応策を職員一同で考える様にしている			○	利用者には日々の生活の中で話を聴いたり、家族には面会時や運営推進会議で意見や要望を遠慮なく伝えてもらえるような雰囲気づくりに職員全員で取り組んでいる。管理者はカンファレンス後に職員が意見を言う機会を設けており、日頃から職員が話しやすいよう雰囲気づくりにも努め、職員は気軽に何でも相談することができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入居の契約時に、苦情相談窓口について。代表が説明している	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ケアプラン見直し時には、必ず連絡し、伺う様にしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを訪問し、一人一人利用者に声をかけ、話しやすい雰囲気作りに努めている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃より、話しやすい雰囲気作りに努め、また、カンファレンスで職員の意見を聞く様にしている			○	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員には、サービス評価の意義を説明し、今回初めて自己評価を行った	/	/	/	開設後初の外部評価であるため評価外の項目ではあるが、今回の評価結果をもとに目標達成計画を立て、運営推進会議などで家族をはじめ関係者に報告していきたいと考えており、積極的な姿勢が評価できる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	-	外部評価が行われてから、カンファレンスで検討する予定	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	外部評価が行われてから、カンファレンスで検討する予定	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	-	外部評価実施後、実行する	○	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	-	外部評価実施後、実行する	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	災害の種別ごとにはマニュアル作成できていない	/	/	/	消防署指導のもと1度避難訓練を行ったが、地域住民や家族の協力が得られるまでには至っていないため、より積極的に地域との関わりをもち、連携強化を図り今後の災害訓練に取り組むことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	開設して1年、2回しか避難訓練行っていないが、日勤帯、夜間帯を想定した訓練を行った	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	×	全て兼ね備えているか、不安である	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署には一度来てもらい、消火訓練を行ったが、地域住民や家族の参加はまだ現在できていない	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議で情報を発信したりしているが、それ以外はできていない	/	/	/	まだ日が浅い事業所なので、地域とのつながりの構築には何らかの取り組みが望まれるため、代表者と管理者を中心に職員一丸となり地域に根ざし、相談拠点となるような事業所を目指して欲しい。町内のグループホーム管理者の集会には参加し連携を図っているが、まだ1年目で不十分であるため、地域住民とより関わりを深め、地域の相談ニーズの集約や地域イベントへの協力など交流をさらに深め、地域のケア拠点としての機能を果たすことを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	相談支援をできる体制はあるが、未だ行っていない	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行っていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行っていない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内のグループホーム管理者の集まりには参加し、連携をとっている	/	/	△	